# 校友時報

昭和46年3月1日
編集人兼発行所
秋田県能代市追分町4番26号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所 大勝堂印刷所

## 部説

# 高校生活とは？

高校生活とはどんなものであろうか。卒業していく三年生にとってはどんなものだったろうか。

一年の時はただ夢中ですごし、二年になると一年の時はあまり深刻に考えなかった進学や就職のことが頭にはびこってくる。三年になると目標が決まり、ただそれを目指して頑張る——。

高校三年間のあらすじはこうにちがいないと思うのだが、このほかに口では表わせない何かがあるはずだ。学校という集団内で、第二成長期とか、思春期といわれている三年間の青春を何も悩まず、考えずに過ごすはずがない。必ず何かの心の葛藤があるはずである。それが深ければ深いほど結論がはっきりして、高校生活の意義がわかってくるのである。

しかし、ただ、考えたり、悩んだりして結論を出してはならない。大当の結論をだそうとするには、実践が伴う。実践なくて高校生活の意義を悟ろうとするのはあさはかである。また、自分の悩み、考えを明確にするために起こした行動が、成功したか、失敗したかという結果は高校生活では問題ではない。行動を起こすというそれ自体に意義があるのであって、結果は二次的なものである。

それが問題になり出すのは社会に出てからである。社会に出てからは成功か、失敗かによってその人の一生が左右されるのである。だから、社会に出てからは成功しなければならない。そのためには高校生活の中での苦悩は、単なる悩みとすることなく、試行錯誤しながら、自分なりの結論を出す必要がある。また、実践から結論を出すまでは、いろいろな障害が伴う。実践には、障害が不可欠であり、障害があってこそ、実践というべきである。障害のないものは実践というべきではない。

例えば、十里強歩、これは高校生活という行動の中で、外的な障害の伴う厳しい実践の好例であろう。あれくらいの試練、障害があってこそ行動といえるのである。

我々の心の中には障害を敢えて求める心が眠っている。しかし、それを覚醒させようとしている人は少ない。だから、「今のワカイモノは——。」などと言われるのである。それゆえ、我々は、障害を求めて実践に行動しなければならないのである。最後に、これから社会に巣立って行く三年生には、高校三年間の経験をいかし、あくまでも頑張る実践を期待する。（副山）

## 卒業記念品

卒業の記念品として、今年の卒業生からは四年度卒業生と合同で、和文タイプライターが学校側に寄贈された。これは二月十日三年生の終業式の当日贈ったものですでに事務室で使用されている。また、卒業生は予餞会席上で校生から湯呑み茶碗が贈られた。

## 皆勤賞受賞者

今年度の皆勤賞受賞者は次の十八名である。この皆勤賞は、三年間無遅刻、無欠席、無欠課で通した者にのみ与えられるもので、該当者は今日の式上でその表彰状を受ける。

三年A組 菊池 洋一　寺崎 三寿
三年B組 伊藤 一美
菊池 睦　佐藤 恵一
佐藤 三之　岡本義保子
田畑 栄市
三年D組 菊池 薫
三年E組 田中 正　大高 晴夫
越後 早苗
三年F組 神田 洋一　工藤 貫治
田口 勝正　日沼 三男
小川 良子
三年G組 丸山 充

## 卒業式の簡略化

昨年は、初めて卒業式が大幅に簡略化された。代読や祝電披露などは式上では省略され、廊下には掲出されるだけであった。県教育委からの祝辞も本紙に載せるだけという、極く簡単な形式になった。そのため、式はわずか四〇分ほどで終了し、これが無駄のない卒業式と好評を博していた。

今年もまた去年とあまり変えず、名称もただ「昭和四五年度卒業式」と短いタイトルの簡素な卒業式が行なわれることになる。

## 卒業式式順

修礼
開式の辞
君が代斉唱
卒業証書授与
賞状授与
式辞
祝辞
送辞
答辞
唱歌　仰げば尊し
　　螢の光
校歌　一番、四番
閉式の辞
修礼

# 昭和四五年度卒業式 本日挙行される

弥生三月、そろそろネコヤナギの芽も柔かな息吹きを如める頃である。本日、昭和四五年度卒業式が挙行される。ここに、新制第二期生は高校生活に終止符をうって新たな世界へと飛びたって行く。卒業生は男子三三三名、女子二七名で、生徒会活動や、クラブ活動の歴史に、また一つの年輪を加えて、きょう三月一日、卒業式を迎えたわけである。

今年もまた、進学校の悲しさであろうか、国立一期校等の受験日と重なるため、式に参列できない卒業生が百名以上いる。そのために我が校では終業式もやるのだが、それにさえ、参列できない人もいる。例年のことと言え、思えば何か寂しい感じがする。

今年度は多難な年であった。生徒会は同窓会危機にさらされた。再三再四の役員選挙、生徒会費の不足 etc、etc……

また、クラブ活動でも、過去に類を見ないほどの不振にあえぎつづけた。一年間に二人もの事故死者が出たり、思えば明るいニュースより、暗い方が多い。しかし、最もつらい一年間だっただけに、卒業生には、かえって思い出深いかも知れない。

運動面では華かしい戦績を残せなかったというものの、生徒会活動においては、極度の財政難をきりぬけ、文化祭を成功させ、「巨瀑」（おおなな）も発行できるところに漕ぎつけた立て役者は三年生であった。前期の生徒会長は三年生であった二例を見ても先輩の意気でみがうかがわれるだろう。

一つ一つあげればきりはない。思い残すこともあっただろう。しかし、安心して卒業して下さい。

卒業生のみなさん、おめでとうございます。

過ぎ去った高校生活を振り返りますと、それぞれ長くも短かくも感じられる年月だったことでしょう。しかし、みなさんのこれからの人生からみると、それはほんの刃にとりましても、深い意味のあるひとときであるはずです。

長く感じられても、短く感じられても、これまでに培われた力が、未来へのはばたきに大きな力になると信じます。

ことしの年頭に、マスコミは一様に「幸福について」、「幸福とあるべきはずなという企画を持ったことは、記憶にあらたなことと思います。ややもすれば、外に向かってのみ走がれがちなわれわれの目が、しずかにそれぞれの心の中に向けられること

# 祝辞

県教委

卒業生のみなさん、おめでとう。

このことは、いかにして人生の大切さを世に問うたものでしょう。

に「生きがい」を見い出すか、ということにもなります。この国土の中に、また祖先の営みの上に、いま我々が生きているということをあらためて自覚し、自分なりの「生きがい」を求め、たとえどんな地味で目立たないことでも、自分で価値ありと認めたものに真剣にとりくんでゆくことが必要ということになりましょう。

このことを、みなさんの門出にのぞんで、祝福のことばといたします。

みなさんの、ご多幸をいのります。

昭和四六年三月一日
秋田県教育委員会

# 点

▼卒業にあたって、あまり形式的なことは言わないことにしよう。例によって本校の卒業式は卒業生の参加が約半数である。入試などの関係上やむを得ないことだが……。▼昨年も各地で卒業式阻止が騒がれたが、我が能代高校では何の音沙汰もない。そんなことを扇動するつもりは毛頭ないが、事情は式に出てみればわかる。いかに卒業証書をもらうためだけに高校にきた者が多いか、また大学へ行くためだけに高校にきた者の多いことか。▼言いたいことは、卒業式がいや高校生活全部がいかに形式的になりつつあるかということである。▼その例を卒業式にとるが入場も退場もたいして変わらない表情でいて、送辞を答辞もありきたり、誰もかれもたいして耳もかたむけずに素通しうえている……そんなのではだめだと言うのだ。そりゃ、心中は必ずしも無気力ではないかも知れないが、しかし、形式的にだけ「仰げば尊し」や「螢の光」がうたわれている中で誰が泣くというのだろう？ 何人がこみあげてくる涙を感じるというのだろう？ ナンセンス！もし泣いたとしても単なるセンチメンタリズムにすぎない。▼少なくとも無気味な形式的なものよりは、大きな声ではっきりと歌をうたいながらどうしようもなくこみ上げてくる思いを感じるのが本当である。問題は、卒業式そのものに対する考え方ではなく、その必然的な時間内に、どれほど正直に今までの自分を顧みたかということである。▼そんなに大げさに考える必要はないと言われそうな気がする。我が校のように、卒業生が半数ほどしか出席しない現状ではそうなってしまうのかも知れない。▼しかし、それならばそうあえて言う。別れの歌は、はつらつとドライにうたおうではないか。涙を流すなら、真珠の涙をそっと流そうではないか。あとはいつも軽くあの正門を出て行きたまえ。


学生のみせ
キムラヤ
畠町
2-5535

コンピュータとカセットテープによる
科学的・立体的な学習指導
現役合格率最高を誇る
第一学習社の通信教育
◇高1 7月・9月生コース
◇高2 4月・8月生コース
10月生コース
◇高3 4月・8月生コース
◆懇切・丁寧な真赤な添削！
◆徹底した担任制個人指導！
◆授業と並行した循環式学習システム！
案内書はハガキで下記へ
第一学習社
東京：東京都大田区蒲田4—29—1 T（722）5906
京都：京都市左京区下鴨宮崎町168 T（781）6351
広島：広島市西白島町17—3 T（28）5171

スポーツで
あなたの運動神経を高めよう!!
スポーツ用品の専門店
秋林運動具店
北校通り T 2—3257

メガネのカモヤ
畠町 T 2—3740